

Week of August 9, 2026 - Righteousness Credited! Small Group Study 11

知り合う

自分で一生懸命努力して手に入れたり、自分でお金を出して買ったりするよりも、全くの無償で思いがけない贈り物として受け取ったときの方が、はるかに嬉しく感じるものは何ですか？

聖句　ローマの信徒への手紙 4:1-12（聖書協会共同訳）

声に出して読んでください：

1では、私たちがアブラハムを肉による先祖としていることについては、何と言うべきでしょう。 2 もし、彼が行いによって義とされたのであれば、誇ってもよいが、神の前ではそれはできません。 3 聖書は何と言っていますか。「アブラハムは神を信じた。それが彼の義と認められた」とあります。 4 ところで、働く者に対する報酬は恵みではなく、当然支払われるべきものと見なされます。 5 しかし、不敬虔な者を義とされる方を信じる人は、働きがなくても、その信仰が義と認められます。 6 同じようにダビデも、行いがなくても神に義と認められた人の幸いを、こう言っています。 7「不法を赦され、罪を覆われた人は／幸いである。 8 主に罪をとがめられない人は／幸いである。」 9 では、この幸いは、割礼のある者だけに与えられるのでしょうか。それとも、割礼のない者にも与えられるのでしょうか。私たちは言います。「アブラハムの信仰が義と認められた」のです。 10 どのようにしてそう認められたのでしょうか。割礼を受けてからですか、それとも、割礼を受ける前ですか。割礼を受けてからではなく、割礼を受ける前です。 11 アブラハムは、割礼を受ける前に信仰によって義とされた証印として、割礼の印を受けたのです。こうして彼は、割礼のないままに信じるすべての人の父となり、彼らも義と認められました。 12 また、彼は割礼の父ともなりました。割礼のある者にとってだけでなく、私たちの父アブラハムが割礼以前に持っていた信仰の足跡に従う者にとっても、父となったのです。

簡潔に内容をもう一度確認してください。どのような励ましや挑戦、慰めなどを与えられますか？

学び

今日の聖書箇所に基づいて、次の質問を一緒に考えましょう。

1. 1〜3節によると、アブラハムは、なぜ、神から義と認められたのでしょうか？また、それは何に基づいたものでしたか？（ヒント：アブラハムが割礼を受けたり、イサクを祭壇にささげたりするずっと前の出来事である、創世記15章6節が引用されていることに注目してください。）

2. 4〜5節で、パウロは「働く者に支払われる報酬」と「信じる者が義と認められること」をどのように対比させていますか？また、神が人を義と認められるとき、その人はどのような状態にありますか（5節）？

3. 6〜8節を見ると、行いとは関係なく神から義と認められる人の祝福について、ダビデ王はどのように語っていますか？また、彼らの不法や罪はどうなりますか？

4. 9〜12節によると、アブラハムが義と宣言されたのは、割礼を受ける「前」でしたか、それとも「後」でしたか？割礼が救いの条件でないとしたら、割礼にはどのような目的や意味があったのでしょうか？

分かち合い

話し合い　その１

武牧師は、私たちがまだ不完全な状態であるにもかかわらず、神は不敬虔な者を義と認めてくださると強調し、次のように語りました。「もし、まず先に自分で何かを変えなければいけないと思っているなら、それは全く的外れなことです。」あなた自身が、「神様のもとに行く前に、まず自分がちゃんとしなきゃ」という考え方に陥っていることに気づいたことはありますか？自分の内面や生き方の変化は、すでに「義と宣言された」後に起こるものだと知ることは、どのような自由と安心感をもたらしますか？

話し合い　その2

武牧師は、アブラハムの割礼は単なる「外的なしるしと認証」に過ぎず (11〜12節)、洗礼や教会のメンバーシップ、献金や奉仕と似ている事を指摘しました。真の信仰が伴わなければ、外的な儀式や行いには意味がありません。私たちは、洗礼や教会生活などの順従の行いを大切にしつつも、「それらの行いによって神に義と認められるわけではない」という福音の真理を、どのようにバランスよく保ち、互いに励まし合うことができますか？

具体的な祈りの課題を分かち合い、互いに仕え合いましょう。